

はな～い
&
はな～い

きじむんの

とーちゅーはなにいー — 第 2 回 —



今月のキーワード

首里の杜・開学の鐘・複製護国寺の鐘



※「首里の杜」碑

さわやかなうりずん^{注1)}の季節となりました！2回めは「首里の杜」「開学の鐘」「複製護国寺の鐘」にまつわる、興味深いエピソードについてレポートします。ではさっそく…Here we go!

** 首里の杜 **

琉球大学本部と附属図書館の間にある緑地に建つ「首里の杜」碑。同碑には次の文章が記されています。

本学は、第二次世界大戦の戦火によって荒廃した沖縄の復興と発展に寄与し、新しい民主社会の形成者養成をめざして、1950年5月22日米国軍政府によって設立され、以後1966年7月琉球政府に移管、さらに、1972年5月沖縄の本土復帰に伴い国立大学となった。

この「首里の杜」は、本学が由緒ある首里城跡に開学し、30年を過ごした首里時代の思い出を残すため、首里キャンパスにあった開学の鐘や樹木等を移設し、1985年5月の移転統合完了を記念して造成されたものである…

「首里の杜」碑は、本学と首里(城)とのかかわりや、激動の戦後復興の歴史を記憶にとどめるために設置されました。同碑は1989(平成元)年5月22日(開学記念日)に琉球大学同窓会が寄贈しました。

寄贈した本学同窓会も、1954(昭和29)年12月4日に発足し、今年60周年を迎えるという歴史のある会です。会の活動については本学HPに「沿革」その他が載っています。ぜひご覧下さいね！

** 開学の鐘 **

「開学の鐘」の碑には、次のように記されています。

この「開学の鐘」は、1950年5月22日本学が開学した時、米軍使用済みのガスボンベを吊して時鐘として使用したものである。昭和62年3月竣工。ガスボンベの「開学の鐘」は、平和を象徴する物として保存されました。平和を考える上で、「開学の鐘」が保存されたいきさつを、私たちの記憶にとどめておきたいものです(右の写真が「開学の鐘」です)。



** 複製護国寺の鐘 **

ペリー提督が琉球を訪れた1854(咸豊4)年、琉米修好条約が締結します。時の王尚泰はこれを記念し、護国寺の鐘を贈呈しました。その史実をうけ、琉球列島米国民政府は琉米修好条約締結百年を記念し、1960年7月20日、護国寺の鐘の複製品を琉球大学と琉球の人々へ贈りました(ドナルド・P・ブーース高等弁務官)。それが琉球大学首里キャンパス内にあった「複製護国寺の鐘」で、千原キャンパス移転の際、メモリアルとして移設されました(左が「複製護国寺の鐘」)。

4月号・5月号では、首里キャンパスから始まる琉球大学開学当初の歴史や、「首里城」の碑・「首里の杜」が千原キャンパスにある理由や歴史について、かいつまんでご紹介しました。来月は琉球大学と他大学との関係史についてご紹介いたします。どうぞお楽しみに！！

(沖縄資料担当: NK)

注1) 旧暦2～3月頃(新暦では3～4月)、または晩春の頃のこと。冬の間に乾燥した土に、春の暖かな雨が潤いをもたらす季節の意。

参考資料) 琉球大学開学50周年記念誌編集委員会編『琉球大学50年史写真集』(琉球大学/2000)、琉球大学編『琉球大学十周年記念誌』(琉球大学/1961)、ゴードン・ワーナー『沖縄復帰物語 平和・戦争・占領・返還』(ゴードン・ワーナー/1995)

